

両神山

薄川／七滝沢

メンバー：三井(主、記録)、志満

遡行日：10年6月27日

当初、谷川の沢を予定したのだが天気予報が芳しくない。そこで近場の沢に変更しよう、という事で物色して選び出した。

両神山の沢、というと「キギノ沢」がまず挙げられるが、今回の「七滝沢」はその「キギノ沢」と尾根(天理尾根)を挟み南に位置する。“名は体を表す”。「滝」の名の付いた沢はやはり滝があるし、七滝というのは滝の多さを表す言葉として用いられる事が多い。「ルート図集」を見てもキギノ沢同様、滝の連続する沢のようで期待が持てる。

* * * * *

「薬師の湯」という道の駅の建物の軒下にテントを張り前泊。

翌朝、マー、予報通りというべきかパツとしない天気。雨こそ降っていないものの曇りしていて何時降り出しても不思議ではない。どうせ沢では濡れるし大雨の予報でもなければ当然「Go」だ。

登山口の日向大谷は林道の終点で、両神山への主要ルート、清滝小屋を経由する登山道の出発点なのでシーズン中は大変に混雑するらしいが到着した段階では誰もいない。

樹林の下につけられた登山道を30分も歩くと沢と出会う。河原にベンチも備えられていて「会所」と呼ばれている。

早速、入渓の支度を始めるがここで大

ポカをした事に気づく。肝心の溪流タビがない。ザックに装備を詰め込んだ時に見落としてしまったのだろう。

どうも最近つまらない忘れ物やミスがある。これが〇化現象、という事か。つくづく嫌になる。大慌てで車まで取りに戻る。

一時間のロスをだしてスタート。

暫くは極平凡な沢で、コケむした大岩がゴロゴロしている。間もなく8mほどの滝。それ程水流は多くないので水流を直登。その先が「通らず」。狭隘なゴルジュとなって滝が落ちている。

最初のチムニー状の滝はつっぱりで登れそうだが、取り付くには釜に入らねばならないが、その釜は小さいが深そうで首まで浸かりそう。その奥の20m滝も水流を浴びそうな感じ。

この天気じゃ濡れたら寒いに決まっている。左岸のリスジには手招きするように残置ロープが垂れている。「巻こうか。」

再び平凡なゴーロの沢。時折沢に沿うように踏跡があらわれる。(七滝沢コースという登山道があり、荒れた部分もあって上級者向きという事らしいが。)前方左手から大きな滝が落ちている。これが「白滝」30m。滝口から見上げると3mほど上にスリングが垂れている。全体的には何とかかなりそうな感じ。

だがその3m上の残置スリングまでツルっとしていて登れない。ピンを打とうとするも適当なリスがない。結局ここも巻き。

右岸から巻き、落ち口の上に出るもその先の滝もマズそうそのまま更に巻いて沢に戻る。

ゴーロ状の沢を辿って行くと一旦伏流

となるが小滝とともに再び水流が現れる。前方に巨瀑が立ちふさがる。手前の30m程の滝は段状で難なく登るも、その上に続く大滝は何やら脆そうな垂直の壁から細々と水流を細々と落としていて取り付ける代物ではない。

帰宅して調べてみるとどうも「養老の滝」と呼ばれる三段50m(と、記した記録もある。)の滝ではないかと思うが滝相が少し違う気がするが…でも、ほかにこんな大きな滝は無かったしね。

右岸から巻きにかかるが、滝の先には垂直の壁が屏風のように立ち塞がっている。垂壁の間の弱点を拾い、稜線に向かってツメ上がっていく。選択眼が試される所だ。ルートを見誤ればドツボにはまりそうだが逆に面白い。

右岸の樹林の支尾根に上がる。左側は切れ落ちていて注意を要する。これで稜線に上がれるか、と思ったら嫌がらせのようにまたプッシュ混じりの垂壁。が、幸いそれ程大した事はなく、ひょっこりと小さな祠の前にでた。それは縦走路から外れたところにあるもののように、暫く踏み跡を辿って行くと直に両神山の山頂標識と御対面。ともあれ完登の握手。

快晴とはいかないが山行前の予報からすれば上々といっていい天気。生憎遠方の山々は雲の中だがこれ以上望んでは申し訳なからう。

100名山の山、シーズン中なら大変な賑わいだろうし、今日だって2.3時間前にはハイカーがたむろしていたのだろうが、今は我々以外に誰もいない。

ガチャを仕舞い、ズックに履き替えると清滝小屋経由の登山道を下る。

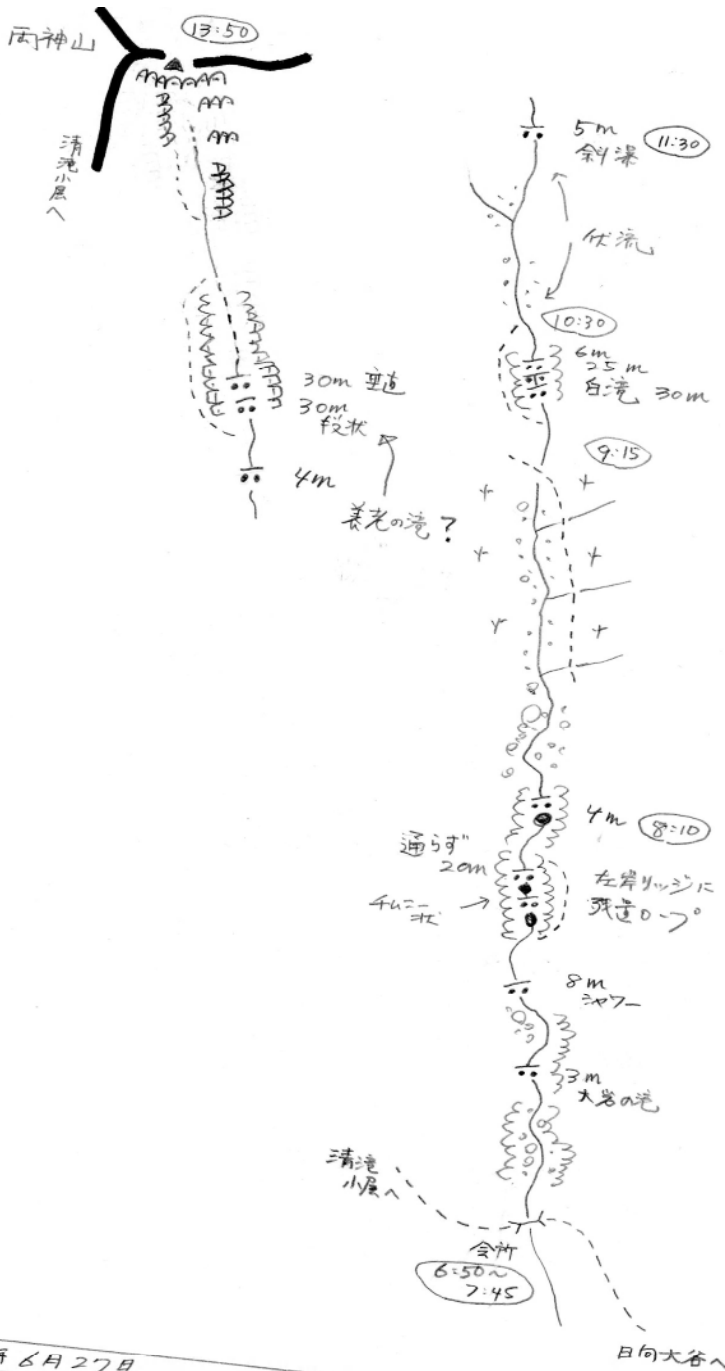
2時間ほどで車に戻り、前泊した薬師の湯で汗を流して帰厚。

* * * * *

そこそこ登られている沢だと思うのだがその北側に位置する「キギノ沢」に比べると意外と記録は少ない。

今回は殆どの滝は登らず巻いてしまったが、時期と時間を考慮すれば登れる滝は幾つかあるし、そうなれば面白さは倍加する。

特にお勧めの沢、という訳でもないが水量は多くはないので、今回の我々のように、天気心配がある時のピンチヒッターとして頭に入れておいてもいいように思う。



10年6月27日
 両神山 / 薄川・七滝沢